

## スタンドグラスの輝きを願って



リビングの片隅を照らすフロアスタンドの笠は、私が見れば、スタンドグラス的に見えなくもないと、悦に入っています。

このスタンドは黙して語りませんが、長い歴史があるのです。これは私の両親の特別な結婚記念日、銀婚の時に、両親へのお祝いとしてプレゼントしたもののなのです。それ以来、たまには、両親の家のリビングでタペに光を灯したはずです。父は書斎の人、母はテレビの人でしたから、彼らの光源は違うものでした。無用の長物だったかもしれませんが、大切にされておりました。両親が亡くなり、様々な品物を処分するに際し、これを我が家に持ち帰ったというわけです。そしてエルミタージュにも連れてきました。

ピアノを弾くときにスタンドを利用していました。以前のランプシェードは固くて麻の感触で、下しか照らしません。暗いので、一部四角に切りあけて、裏からレースを貼り付けておき、光を取り出しました。来客の時は穴が隠れるようにくると後ろ向きにしておきました。これが家族からヒンシュクをかっていたのです。スタンドグラス大好き人間の私はシェードをそれにできないかと思っていましたが、無理とのことで、思いついたのが、私のドレスです。

このドレスにも歴史があります。大昔、夫が、聖公会のご婦人と市民クリスマスを通じて知り合い、彼女がマダムをしておられるオートクチュールで、彼が生地を選んで、仕立ててもらい、私にプレゼントしてくれた貴重なドレスです。イタリアの生地で発色の鮮やかなものです。何度か、結婚式などハレの舞台の日に着用し、彼に感謝の意を表していました。地味好みの私としては思いもよらない柄物でした。もう何十年、着ていないことでしょう。それでも取って置く！

このドレスのスカート部分を切り取って、ランプシェードにしてみよう！きっとスタンドグラスのように見える！慣れない針と糸をもって、手作りシェードに挑戦しました。

ほどいてみるとその仕立ての立派さに驚くばかりでした。目に見えない部分を、丁寧に裏打ちし、一針一針仕上げてありました。彼女の手仕事は長い時間このドレスを支えてくれていたのです。私は心から感動いたしました。よみがえったドレスはスタンドのスタンドグラス風の笠となって、リビングに彩りを与えています。(2014.4.16)

